



[男女共同参画社会の実現をめざす情報誌]

特集

「自立」を 親愛なるあなたへ 模索する人々

“自分らしく生きたい”と願う人たちが
それぞれの立場からの「手紙」をしたためて。

- 男女共同参画社会の実現をめざして
- 日本女性会議'97おかやま シリーズ第1回
- 子育て応援!!ファミリーサポート事業

OKAYAMA

1996.9

vol. 11

DUO

[デュオ]



特集 『自立』を 模索する人々

介護と老後のこと考えましょう

親愛なるあなたへ

夫の役割？妻の役割？、男の子の育て方？女の子の育て方？長き時代の流れの中で積み重ねられてきた伝統的な価値観は、多様性が重視される現代社会にも根強く残り、“自分らしく生きたい”と願う人々(特に女性の…)の気持ちを大きく揺さぶります。でも、そんななかにも自分の人生を大切にしようと、独自の価値観を模索する人々も増えてきました。今回は、そんな人達の、ふだんは面と向かって言えない思いをそれぞれ手紙にしたためていただきました。

家事、子育ては二人の仕事



これ以上は無理、子どもはいらない？
 子どもが生まれて早1年。仕事と子育てを両立するためには夫であるあなたの家事・育児参加は不可欠。でもまあ、この1年、なんとか2人でやってこれましたよ。あなたは家事の半分(そんなんどか2人でやる)を持つかどうかは私達にとっては大きな選択。思い返せば子どもがある私の仕事を、「これ以上は無理。子どもはいらない」という私の考えはいつまでたっても平行線。時を変え、場を変え、時には徹夜で、延々と夫婦の話し合いを続けたこともありましたね。結果、私は勤務形態の柔軟な仕事に転職。あなたも大変なのを回しながら台所で洗剤を、赤ちゃんの世話も慣れたもの。家事・育児に主体的に関わる様子に、わが夫ながら「うーん、すごい」と思うと同時に、あの時、私の生き方を2人の問題として考えてくれたことには感謝しています。これからもきっと、2人開けるってことがわかったから。
 (子育て真っ最中の妻・30歳代)

男だって…
 これからの時代は、個性が重視され、男女の差も縮まり、それぞれの能力を発揮するチャンスが増えてくると思う。だからこそ、わが娘を女の子だからという枠の中に閉じこめなくて、自由にのびのびと育てたいと思う。しかし、「料理ひとつできません」という女性にはなってほしくないなあ。これは男にも言えることだけど、料理、洗濯、裁縫その他、全て生かすために欠かさないものだ。「誰かがやってほしい。(勉強さえしてたらいいなんて、それこそ時代遅れさ!)」
 それから、男には仕事があるけど、主婦は一日家にいて、何のための人生かわからないなどと愚痴をこぼす人がいる。ちょっと待てよ。男だって仕事ばかりの人生に、ふと自分の生き甲斐は何か、と仕事以外の何かを求める気持ちが駆け巡ることもあるのだ。だから君には、本当にやりたいことは何かをみつけてほしい。人生は無駄なことではない。自分の生き甲斐をみつけてほしい。そのための協力は惜しまないつもりだ。
 (夫・40歳代)

女は外に眼を向けて、男は内に眼を向けてみる。きっと新たな自分を発見するはず。



人生を共に歩む夫婦だからこそ、思いをぶつけあうことが大切なのですね。



“良い嫁”やめた…
 長男のあなたと結婚して27年。あなたの両親は体が弱くて、特に義母さんは難病にかかって大手術。静養の日々を送っていましたね。年に2~3回は入院の繰り返し。別居だから、あなたの両親のもとへ私が帰ることも多かった。私自身、“良い嫁”でありたいと思い、通院の足となり、買物・家事をしていました。義父さんも義母さんも嫁の私をとて可愛がってくれて、どうして長男の嫁だからといって、私ばかり面倒をみなければいけないの？嫁いなくても娘もいれば、次男の嫁もいるのに…”と不満で一杯になり、あなたに「誰の親かしら!!」と愚痴を言ったりもしました。でも「俺が帰っても何も義父母の求めはだんだんエスカレートし、私は便利に使われているという思いが大きくなっていきました。私も仕事をするようになったのをきっかけに“良い嫁”をやめようと思いつきました。買物も近くの店で済ませ、病院へもバスで行くように、出て来てだけ頼らないように努力して、ほっとしていました。そして、今年の1月義母さんが癌の手術をした時、あなたの対応が変わり取り計らってくれました。私の負担は軽くなり、以前のような不満の心は影をひそめたのです。あなたがこんなに変ったのはどうしてでしょう。定年を控え、家庭の大切さかわかってくるようになっていきましたね。今年も少しの入院で、これから看取るであろう両親の介護は、みんなの協力がなくてはならないと実感しています。
 この機会に私達夫婦の老後についても話し合うようになりましたね。私達が老後を迎える時は、子どもは少ないし、遠くに住んでいると見てもらうのは無理かもしれないですね。できるだけ子どもたちに迷惑をかけないように、自立をめざした生活設計と一緒に
 (長男の嫁・50歳代)



俺の気持ちはわかってきている…
 「いつも両親の面倒を見てくれてありがとう」な口に出して言えないものなんだ。俺の気持ちはわかってきているよな。家事も介護もおまへ1人に任せるともいらないよ、今は仕事優先だけど、これからは俺も出来る限りするつもりだし、子どもがみんなですればいいと思う。家族でできなれば公的サービスも考えよう。これからはよろしく。
 (定年間近の夫)

介護は女の仕事だ
 という思い込みありませんか？
 男も女も、社会全体として
 考えなくてはならない
 さし迫った課題ですよ。

Information

老人介護に関する公的サービスのご案内

- ホームヘルパー (家を訪問し、介護や家事を援助します)
- デイサービス (施設で入浴や食事、リハビリのサービスをします)
- ショートステイ (介護できない時に、一時的に施設で介護します)
- 在宅介護支援センター (介護の悩みや相談に応じています)

● 詳しくは福祉事務所または在宅介護支援センターへどうぞ。



仕事と家庭の両立——女だけが悩まなくてはいけないの？

2人分20組のおしめをかかえて

「超氷河期」といわれる就職活動、独り立ちしようがんばっているあなたをみて、20数年前の自分の姿をかさねてしまいます。私の場合、結婚、3人の妊娠・出産、子育て、ずっとフルタイムで働き続けてきた…仕事、妻、母親—2人分20組のおしめをかかえたあ、保育園へ送り迎えをした日々など、今から思えば自分でもよくやったなあ、と思います。夫をはじめ、職場の同僚、保育園や学童保育の先生、母親同士など本当にたくさんの人々に支えられたからこそ、ここまで来ることができました。

学生時代はあなたと同じようによく悩んでいた、そんな私が、「で信」というのかな、それは決して「ひとつとび」ではなく、1年また1年と積み重ねられてきたと思うのです。

仕事には、企画、研修、発表、目標の実現などさまざまな場があります。その中で「やった」という達成感、胸ドキドキ、緊張感、これが実におもしろい。他人から必要とされた時、人は輝くと思います。これを男性だけに「独占」させておくことはないと思いませんか。あなたにもぜひ実感してほしいと思っています。

もちろん、ボーナスや退職金、社会保険や年金も、「自立」の基礎になる大切なことだと思います。

社会へふみだすあなたに、「自分らしさを大切に」「まわりの人と支えあって」がんばってね、とエールをおくりします。(働き続けてきた母)

私は必要とされていないの？

「超氷河期」というマスコミの報道に、不安だらけでとりあえず就職活動を始めたのが今年の1月下旬。送られてくる就職雑誌についているハガキで資料請求をすることから始めました。業種は絞らず、少しでも気になる会社には資料請求をして、返送された資料を基に企業研究をし、3月・4月には合同企業セミナーにも参加したり、できるだけ多くの情報が得られるようにしました。

5月頃からは会社説明会も始まり、1ヶ月の予定を就職活動で埋めなければ、他人より遅れをとるような不安感から、1週間のうちの2~3日は就職活動にでない会社ばかりで、とりあえず1つ内定をとっておきたいという気持ちで私という人間は必要とされていないのか、受かるためにはどのようにしたらよいのかと思悩むようになりました。でも、その考えは甘く、次々に試験に落ちてしまい、多く、就職活動の厳しさを実感したのです。しかし、それらで得たことを教訓に、明るさや自分らしさを失わないように続けていくうちに、やっと内定をもらうことができました。

就職活動を通じて、精神的に成長することができたと思います。これから始まる社会人としての生活では、いろいろな壁にぶつかるでしょうが、1つずつ乗り越えていきたいと思っています。

(就職活動中の娘)



男女共同参画社会の実現をめざして

男女共同参画社会の実現に向けて、岡山市は「男女共同参画社会をめざす岡山市行動計画」を策定し、「人間尊重、自立、連帯、ふれあい」をテーマに、施策を総合的、計画的に進めてきました。

行動計画の課題は市民生活の広い範囲に及び、施策の範囲は女性を直接対象としたものだけでなく、間接的にも関連の深い施策が含まれています。

また、市民の参画や協力を得て実現していくもの、国・県への要請等を進め、実現の図られるものも計画に入れていきます。

基本目標

1

男女平等意識を広げよう

男女の在り方を画一的にとらえるのではなく、様々な自己実現のできる環境づくりのためにも、「男だから」「女だから」といった男女の固定的な役割分担意識を取り除き、平等意識を広げることが急がれます。

具体的な取り組みとして…

- 日本女性会議'97おかやま開催
- 情報誌発行
- 男性ルネッサンス講座
- 学習会への講師派遣
- ビデオ貸出

「男女共同参画社会」とは…

男女が対等な社会の一員として、自らの意思であらゆる分野に、企画・立案・決定の段階から参画することができ、政治的、経済的、社会的、文化的利益を等しく受けるとともに責任も担う社会です。

岡山市は1990年に行動計画策定後、少子化をはじめとする社会の変化を踏まえ、女性問題に関する市民意識・実態調査を実施し、「男女共同参画社会」をキーワードとして計画の見直しを行いました。

基本目標

2

男女共同参画と、それを支える条件づくりを進めよう

議会、審議会、職場、地域活動、家庭などの様々な分野へ、企画立案・決定の段階から男女が共同参画できるよう、条件を整えていくことが必要です。

具体的な取り組みとして…

- 審議会等への女性登用推進
- 女性リーダーの育成
- 女性人材データベースの作成
- 保育園の整備
- 公民館講座
- ファミリーサポート事業

基本目標

3

すこやかで安定した生活を実現しよう

男女が共に社会的責任も家庭的責任も分かち合える対等な人間関係を持ち、地域でもふれあいが深められるよう、家庭、地域、行政の連帯のもと、心身とも健やかに暮らせる環境づくりが必要です。

具体的な取り組みとして…

- 母子保健対策
- 女性のための特別相談
- 各種相談事業
- 環境啓発

計画を進める体制

この計画を進めていくには、市民と行政が一体となって取り組むことが必要です。

- ◎行政内部の総合調整を図る体制や、市民代表者から幅広い意見を得る組織を活用し、施策を展開する。
- ◎市民・女性団体のネットワーク化を進め、各種事業を市民と行政が連携して取り組む。
- ◎男女共同参画社会実現のための拠点整備を進める。

日本女性会議'97 おかやま

第1回



実行委員会委員長
林 順子さん

来年、岡山市で開催される日本女性会議について、シリーズでご紹介します。今回は実行委員会委員長の林順子さんにお話を伺いました。

(編集委員/荒木友子記)

? 先日、実行委員会がスタートし、林さんが委員長に選ばれたわけですが、どんな思いで立候補されたのでしょうか。

日本女性会議のきっかけとなった「国際婦人年」の1975年頃、私は仕事を始めていて、娘・妻・母という女のいろんな役割を担いながら、本当に日々葛藤の連続でした。「国連婦人の十年」を受けて日本女性会議が始まった頃から、仕事も常勤を非常勤の形に変えて、地域の中で女性問題につながる活動の拠点づくりを始めたり、公民館で女性のための講座の企画・運営に市民として主体的に関わったりしてきました。そして、岡山での女性会議に関わることでエンパワーメントできるという実感もあり、立候補しました。ポスト北京会議という重要な全国規模の女性会議だから、しっかり関わりたいと思いました。

? 立候補挨拶で「イマジネーションとアクションを！」と呼びかけられましたね。アクションは行動をおこそう！ということだと思うのですが、イマジネーションについて少し具体的に聞かせてください。

イマジネーションは大事な力です。ドリームでなくもっとリアルな意味で使いました。女性問題って一体何だろうかと、自分の足元を含めてより広い社会全体、世界の中でとらえ直す時に、たとえ自分が厳しい現実と直面してなくても、《想像》することで貧困や武力紛争も含め様々な状況下にある人々と繋がっていけると思います。女性会議では、この繋がりをベースに女性問題について考えていきたい。想像力を働かせ、自分の身の周りに起きていないことでも感じられる人間になりたいという気持ちで言いました。



日本女性会議'97おかやま実行委員会設立総会

? 岡山で開催することの意義をどのようにお考えでしょうか。

女も男も本当の意味で共同参画していくための力を各々つけていけたら一番いいんじゃないかなと思います。変えていく力みたいなもの、それは一朝一夕にはつかないから…どんな些細な事でも自分で決定して、行動に移していった時に自分で責任をとるということです。皆に可能性とチャンスがあるのだから、責任を自覚しながら一人ひとりがいいものをつくっていく中でエンパワーメントしていきましょう。

みんな岡山の市民なのだから、自分にとって何が問題かということと言葉にしていけば、岡山らしさが出てくると思います。実行委員の後ろには60万人の市民がいるわけだから。この力は岡山の財産だと思います。市民にとって最も身近な行政である市と、私たち市民と一緒にあって作り上げる会議です。皆で力を合わせ、全国に向けて《岡山》を発信しましょう！

「日本女性会議'97おかやま」とは

日本女性会議は1975年「国際婦人年」と、これに続く「国連婦人の十年」を記念して、わが国の女性問題の取り組みを進めるために、1984年名古屋市の第1回会議の後、毎年各都市が連携して開催している全国規模の会議です。女性問題の解決に向けた自治体での取り組みや活動事例を学んだり、交流促進・情報ネットワーク化や市民の共同参画をめざしています。

第14回日本女性会議は、来年10月23日・24日、岡山市と実行委員会の共催で開催されます。去る7月12日、実行委員会が発足し、実行委員128名(団体等から推薦された個人及び公募による個人)が、「日本女性会議'97おかやま」に向けて学習や話し合いを重ねながら、企画・立案を進めています。

ご存知ですか？

育児を応援してほしい方と育児を応援したい方の相互援助活動

子育て応援!! ファミリーサポート事業

●ファミリーサポート事業について●

■活動内容

- 保育施設の保育開始前及び保育終了後の子どもの世話
- 保育施設への送迎
- 突発的な場合に子どもを預かること

■会員の条件

- 育児を応援してほしい方(依頼会員)
 - ・岡山市在住の方
 - ・生後3か月以上10歳未満の子どものいる方
 - 育児を応援したい方(提供会員)
 - ・岡山市在住の方で自宅で子どもを預かれる方
 - ・65歳位までの心身ともに健康な方
 - ・子どもの保育に熱意をお持ちの方
 - ・社会参加をしてみたいと思っている方(性別・資格・経験は問いません)
- ※依頼会員、提供会員の両方を兼ねることもできます。

■研修及び登録

- 研修を受けた後、会員として登録されます。
- 活動できる曜日・時間帯・あるいは依頼したい曜日・時間帯を登録します。
- 会員は補償保険に加入します。
- 提供会員は、研修会(12時間程度)があります。依頼会員は、研修会(2時間程度)があります。

■利用料金

- 月曜～金曜日(祝日、年末年始を除く)の午前7時から午後7時まで(基本時間)1時間700円
 - 上記以外の曜日・時間(基本時間外)1時間900円
- ※依頼会員が提供会員に払います。

Q 会員になるための研修とはどのような内容ですか？

A 依頼会員の方は当事業の会則や利用する際の注意事項を中心に2時間程度、提供会員の方はその他に、子どもの健康管理や心の発達についての講習を計12時間程度受けていただきます。

Q 現在働いていないのですが、仕事以外の用事でも預かってくださるのでしょうか？

A 仕事につなげるための資格試験の勉強や、ボランティアなどの社会参加のために利用される方もあります。また、母親が急な病気になった場合に預けられたケースもあります。幅広い意味での育児支援です。

Q 見ず知らずの方に預けるのは、少し不安があるのですが…

A 子どもを預ける・預けないは、依頼会員と提供会員双方の合意で決められます。そのため、子どもの様子や保育内容を含め、事前に打ち合わせできる機会をみなさんつくられています。もしお互いの条件が合えば、センターが他の会員の方を紹介します。



センターより…



援助活動を開始して約9か月。現在271人(平成8年9月1日現在)の方が会員として登録されており、依頼会員の方々から大変助かっているという声が多数届いています。一度も利用されていない会員の方々にとっても『いざという時に子どもを預けられる所があると思うと心強い』と支えになっているようです。今後は地域ごとに交流会を開くなど会員同士のネットワークづくりにも力を入れ、核家族の子育てを地域で支援する体制を整えていきたいと考えています。また、会員が1人でも多くなることが多様なニーズに対応できることにつながります。気軽にご利用ください。

お問い合わせ
申込先

岡山ファミリー・サポート・センター

〒700 岡山市鹿田町一丁目1番3号(中島ビル2階) TEL.086-227-2525 FAX.086-222-8738

新着ビデオのお知らせ

VIDEO INFORMATION

おすすめ
CHOICE

ジェンダー・フリー～学校からはじまる男女平等への道～

男女平等と言われている学校にも気づかれないところ
で問題があります。このビデオは、社会的・文化的に
作られた性差「ジェンダー」にとらわれない教育という視点
から取り組んでいる学校のドキュメントです。

おすすめ
CHOICE

ならんで一緒に歩きたい～男女共同参画社会づくりに向けて～

女性を取り巻く諸問題を分野ごとに解説し、私達にで
きる身近な取り組みについて考えます。また、昨年の
世界女性会議の行動綱領と関連する分野については、綱領
の内容も紹介しています。

用語解説

ジェンダー (gender)

女性と男性という生物学的性差を「セックス (sex)」と呼ぶのに対し、社会的・文化的に複雑かつ精緻に作りあげられた性差を「ジェンダー (gender)」といいます。

私たちは、家庭や社会で知らず知らずのうちに「女らしく」「男らしく」とすり込まれていきます。「女は家庭」「男は仕事」という性別役割分担も、ジェンダーが根底にあります。女性の社会進出が広がっても、家事・育児・介護との両立が女性には求められ、過重負担に悩まされることにもなります。

第4回世界女性会議北京大会では、世界全体の貧困・環境・紛争などあらゆる問題がジェンダーから生じているという認識をふまえて、社会全体をとらえ直していくことが大きな課題となりました。

Information

愛称は「デュオ(DUO)」に決定!!

「男女共同参画社会の実現をめざす情報誌」は、これまで「女性のひろば」として親しまれてきましたが、女性にとどまらず男性にももっと親しまれる情報誌にと、新しい愛称を市民の皆さんに募りました。

岡山市女性問題対策協議会で選考の結果、山本和子さん(古都宿)の「デュオ」に決定しました。

「『デュオ』はフランス語で、二重唱、二重奏の意味です。のびやかに美しく男女がハーモニーを奏でるイメージで命名しました。」とのことでした。

- 応募者/86人
(女性70人、男性16人、17~89歳)
- 応募作品/168点

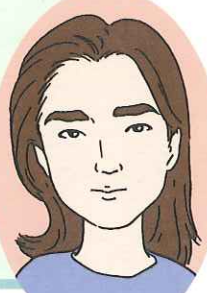
新編集委員紹介

女性をとりまく問題は様々ですが、根っこは社会の最小単位である「家族」(とりわけ夫婦)にあるのかなと感じています。身近なテーマをわかりやすくお伝えできればと思います。



荒木 さと子

これまで男性の職業、女性の職業と言われてきた分野に、性別をこえて活躍する人が増えてきました。しかし、現実には、ほんの一握りの人でしかなく、まだまだ特別視しがちです。これからは、個性の輝く時代。男女の差に関係なく、自分らしく生きるためにはどうしたらいいかを考えるきっかけ作りになれたらなあという思いで編集委員に応募しました。よろしくお願ひしま〜す。



藤江 信子

「女も男も人権を等しく尊重し、お互いが考えを擦りあわせ支え合う社会」をめざすには自己変革が大切だと思いました。無意識に従っていた社会通念・慣習などを見直してみませんか。すこしずつでも行動に移しましょう。ご一緒に…。



荒木 友子

先日の誕生日で、人生を折り返しました。病院勤務が18年、現在は専門学校で教えています。いつか、経験者が語る「共働きの子育て」なんていう講座をやってみたいと思っています。生き生き女性、バンザイ!



矢田 初恵

今、社会の中における女性の立場は大きく変わってきています。「自立した女性になりたい」と思っている人が実行に移せる勇気を与えられるような情報誌を作りたいと思っています。



坂根 阿喜子

編集後記

新しい名前、新しい編集委員。あれもこれもと思いながら、「自立」から男女共同参画へを意識して作りました。

ご意見や感想をお待ちしています。



事務局A

本紙ご希望の方は女性政策課へ